





きょう でいい はまれるしきるれいりしもすりいめて るうやもうきんろう 思くつうい金む集というもあでそれ集る とす 大物意とはできての力のの集とかつけくは後 在意見神会等のした事といくんとているま るさかりらんはまましと初くう おりていめろうあ 後類は伸う云を方子代 なら のを かり そろうなれり、人が代すんありい ーてめつ しのきてものううるいけるさいえる うなるのかの あとふるれてはらしょい くなりろうべつの事とうとします うるしんういせけとうしけかかろもっ そあずらおり の大学 ているばえるから しきる 一への人なりくずれり そもなくい刻まり るとうちもいくわる とのとめるでうる そうですかめきろ かつうちょくす しくないという さななる あると又云凡初 うまます くのとう シな

伊勢物かりり後接松遺世六人集代中にあと きてうなりしくとはつくんかりゆうきちちら 多論古今遠近了人了多十八人人 をいうるうの人民教神子教被後先達之去方 部哥大概な進札井 るやけのうしる人はに かからからいいときものくれるとはなるますの るようなからいんころろう あるかるかしゃくうる強手といってうるよ おしてとう~とめ氏文集の第一十二艺性と 忠幸 伊強小町れつうくひつりわらうたちま きまるぬるにとりくめて用かり そくろつまるようととりくめてもと けってしてもありくしきとゆるもからり かりかくしるととうう 郷のは松遺の序しばるとしめられけしり ははかどるとうてある」つりゆうか千代了 くらこあげるり を納めいりのつきく なり らめまとうち

要之的値るうけのようとのとうのうせいけんのうりから うろうのと古人してめているとときまから 新接触脳さいかりつのようす それ人うるとは一条が おりいうつうくろいき名のおけてはいくろうなり 通じるとからるいありにあるとしてか あまれまかりょけをればきちかっていからかり を中心かったっておかとあるのというなける 考ら、子

とうきいうからいりる年はとうりりしているった りるあったんろういくろうなるんはそるうかくさ をはかけかりうねしつるくかいうがんにいっ はずいまえりる年代中のかねしとへしてるう かね盛寺 をけるうし

るうるするたといいると

是いは勝ろえずあの中物をしるしているけ

きてってみていいなけっこというけともからい

上主が

旦

あれなとなっては事かる山世の人というかい て世れらるの方はた人の更ものくかろうけるる えていりはとかっちょるけっろんすりとうにと 高人の解名とうけることしきった大物を もというないでは 五条教会の判しまりりりくりしきないから つきるとくとなけれの川やありなららとれまる ありつきょうちからひるるあか るときはくうりゃくうるうしいありる むろろろう見とけっていくもけるされる おはえるつりくとはおうすとかんある うきつくるかくるといいなきれるやうかう る手いよいうさん てすりに密報うわりしてとうりかもい

愛信で後賴朝馬方京を支頭神信物的にちく 見ける人うけるとかりまろしのいやしきする けることりとうなるちょうなと としかまていつしょうときるとめいれくとい

るとそらん べくれめいろうとくれるうちつろれるも なら随体やそうちのないまたととはいるの数から 無は何いるうからたろれのきのえとありよりは 山にくなりしゅうちないのきないみもくいけるを まっ代いいきしとそこかはなるとそいのするんで いすれい门田代福家をつきてあるはなりないとい ナーラの電子の後頼城る 大納言修泛

あいるらんかられないれるでまなる他し川名ちろり るついちるかというのできてのいろようしればでい 思るよりあとうでしてしてもないなってくまてものからなっ 移かくすのへんののの見るれるとうれいりまる きいめるるあれているりきにすりなる きいくきのま次のかるととろうや

り是るのぬくうわかりゆうとてするとそう

うりつけているかとはいるりくくるりとというのである

えいる してあるうとなのとうしてかな

雅はくしくもなくまっていくいきれきるあまって るあいるいろやをなるんじけのうともといってある あるのをとければしてのうちのこれいまっちょう 花りしょうからくまれぬりしますりりのあっかける や花のなのくは楽れまのようなくりの気がをける からかられぬしてくまりき要から かっとかる何のの核しかをおけれてきている 弘楠 情輸派長

もろいえかのはとのうりてうとうしてかいき 世中くはしてうきれめるのはいかしまっていける えんかのできれて極かりれのちらかまろいかの ちつろりろをまてでんたないかりょうつまやはよれらか 行すいてすべかってきるまるからすれるころの 生人 後成分

あってれているでは教があているりょううない

井柱か

男であるられていないかっておりまりつきん

よもくうけらってもっても つきるついむすーしょうちゃくから 四を後する下具義の町心とくる千 のやとうでくるからいけるうるあれるころの人 きった のかおってないとうるとするとういいけ からりてしまるるとうがあってい ちょういかとうえるするりりとめて 八宝の物を第一了平れずんやういととくしろん それてゆむろういいとうるしとする かくさるとはと少がゆるゆってついろいる んともとするに下 りらんにうかいまろいてき いきりく難かくけまっくえんるしま しろうべてんとする必要し他のやうとねって かりなすとあうしゃくろかり しかっていて

発り知

ーさせるとなってあられて一代れるよう

らきされにて 境よりりる うてきながるともとは るう 国かられとうろんえられれるうつきと くておりとくをはへかのつろう るとくろうやち 合かるかりのにするろ 教格放送客室城るまからうて和国の风 ねしこれ十 といろはーけ 通うえかろういとはず の人きに優しなからゆたくかそん のそろう くてみつり るもある ちとおるとい 一种の子 めばあまりしてな ててそれり RE しきるとや ーきれてはしかっやうの しまけいものある あったいかりかけせんっぱ つかさす 一きむなとうす できま きぬしていい てゆうけずいる でるは らいきいめ

上生少

かりたますってはるちょうく動物あれ をうろう 心あるとけんできていまってるとの風を ちまるの感しは多うしゃくめの邀表されたい から ろ人間はカーーく具あってそくとからる 松るやあるとう称ようといるのると事を近日 うて埋いへくれのあるとはずを故戸部で ろくめてたろれともとくしめあるすと 公安之の後ようまれる人ろうと見情が

六百番歌谷 像是 うんとかてとやるろんそうてゆめるする とる た神 包 うちのかったしとりてくるのです るいの通明はられなるといれのという するれきあきとからなける初め いるやされしぬあまして 季便

うなるうでなるうと様かんなかんなかん

きていきなるとのでくれってきていていている との一多的かりまと 万名なると多くりとしているの倫曲折後的 方方中之人十初入文字と題とれありいて るきなりした神を物えるなるとなけましょう 不被真心事とや他大のうとるける 不够好一方面中会班外判会过去了我还多 の氏情は不至うかいれるのゆしるちゃくま 優しててたくはるめきたしい也まからする 中宫權大丈 一切でやらんとう

有しりかくそうとののかかってもしてれれいとうか のきてうり、他代行とあるけるくとろりりか 廣田北千公 建懷 いる中しれのはんりせてれるゆうろいとれ はきとまるよう たちめくこいろ田ろかとのちゅうろうん そんなると勝気るかられ 登革 安月家

ラテ 商行鄉象體行手名 をからいいけっておりろんすて男 同平分 割るたちかり ずったす 先初文人偏質とすがりかりとてもい からしるはるか いかいかり あをかられてと何つきり かってれたかとうといっち もから うしてとくなきぬくなはなる 3 るさっていけっか よる湯のかいようかアスパ なるはでくとれのとい 香 次月

中を了そはるめれば粉色を経動のとりのが特を

んちょうしてきるししまれているの文

まりもむいくうもかき他ときなっ 古いからしているなくないのかろうちょうとろとな ってはる 順德院山而首 きおうもいるのままでゆきて内にろうやとうくまい かくしのきいわりれのはもかきるられるあいまかく 我をかいうかけたまのすくなりとうとうて 回教会 をかしてもとおうでをなかってやいん 五句性新选风情的都不以常中的班多上人校图的 やうるやもろにんしんも いてき三代集り上のないの地域されてもろう 大きのちーで数するとかられて とはちりとくりあり 利なりなくしもちょう くるすー三ちからいちいるかるなると しておいちのをめるうせ三村の力多のうとから ろーくねる事からいろり

愛流塔者的食様ではりると様ろしましるる ますりぬ夕月でからけれのるやさやかしいけかり 多相出了分後的しあるけれてあるるとも上来の 中粉之教之之五百角己 人るうなるまではいまりまっているからのないい きりかやうるからかいかりつくうそう 、又も歩きままとめまするの地場ははあい ちく いが一字之如字班神感版作考了玄多上の元 あるいみを使うなからそれりはかりくとはまし

こがろむきすかり十人の神本なのちょう かりのくれからかくするればりますしてまれて次 名はきいかくのれはあるきてうつらかりろくさはま 浦はこ人級のこまとなり他きをかりった風のちゃれ りるは次のとしますりれているくうなかりのはし きあるほう れるそとかろのれらそう十一首いいるくます 千載集」は後の物い十一首地物でしょうで 多太后宮太史後成

ちかのもはないてものいれるといいろいいといれるといいろいいといいるととできないとうのいれかくされのといいろうというとはないのというとはないないないないとして、からしまないとして、からしまないなくまれるしいないないできまっしょういろうのでいって、まましまるとういろうのでは、ままままない。

むめのとさくうしゆいいのの山のなべめきとれるよう次 あらかるではけりめんのかってきょうけっきゅう えにし次さけらしぬしるらからってるかったのは おゆいとけるいろとにしてはるなれのましたくけき とつめゆきろれわらからそやれべかろうなん いすり一様代のかと新るて今もとものなけの月 がわったからけるようないとう たくけるとうかっておめて我ありましておやまだ きってからてあいめるる年からきめかりです るるのでのあといういくいるよりししのはけり くれる地あいきたりをものすべくなくめて思いときか 榜後楼 なるとうというというかもっていきてもかってる たのまり一か思いるものようしくのからゆきてるにみもし きのとやき了ぬるの城とてはしむだりによっては 金事いめてのなかしいなくまいかったるころん お大納えるか 4

くるをはるけんだとうれるといろれいるもなるしい

あめくてきついのあつなるきになくやしかのきもあった

意のおけれての物界文付てかり着さしる村の山の かるやといいのろくというできょりするうれれいる それのあるようりよめくべんはいかんとていろん 次度のうや実はなくてきはどりしばいいいれの他とは いかりわけるうちいいなりなるとうなるとうなっている けるいなないうとそうてあれていはれるる みらのくはするれたちはのかけんでしてかんとうとはき けいくうのそうぬりめったるとのあるちによって 價格遺 お大物言る大

忠善十神之餘榜神 作むるまろうのくうなどめてあくばぞりに丁· ゆる おいくの秋のちは代形でいるとのころうしろん む国はつりいいろける情からくないいまらはよろうなか おりいうついろりろうのようのかりてるるうしゃ 今さんというりくりしまけのまれているからい 我るけんかろういろうちちかんなちょううくち を切りせいかくるとはいけていのかけてもとうつか 餘情

日看社教合真書之立衆後成の印はこれり 回家大納言る位でわすれる ~るころの好とのかうしとせったしとなっ まさとなくうり~ともかのかしまてとろいるしん をよっていまっているとうとあるるはされかろうえないっと いのくとありればからきいろうればくれてもこ おなり客のほろうけみてくないとうんかりのか 上中をもううりしくあまりかころうちあるちり 上くる家たつすってなりてろうかあるかり

ゆうといってるとうこあけずれりとうちから めからうもにくうちろとあまるとうからう ろあるううしよりあるうとかきしそのし やからいるととはやありぬるやひりれて あるうやたくしまけれのありからんたかり くるけれる事動のうういろやうちょきろ しれけりのするるを乃降ときてからのあり するかりからからういろそろうとける 美見しいむまりのかましまくれのうらうなと

千五百卷 きんかられるとうかっちかのを上ろれるりなります れらったけるるいあれてとくうゆきいない 六面番歌公 ある らいむとぬるなるのというであかというないと まるるとはらると 事 京極黄門省之方 利之からな情し神らる まかせんとよりないちったせ かっ くっているとうな 信う 有家朝名 かってである



